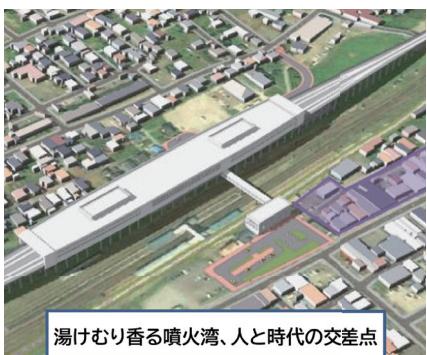


各駅のデザインコンセプト及び  
各自治体の駅周辺整備計画(イメージ図)



牧場の中にある駅  
～二つの海をもつ八雲の大地にたつ、牧歌的風景に調和したシンプルな駅～

【新八雲(仮称)駅】



湯けむり香る噴火湾、人と時代の交差点

【長万部駅】



羊蹄の四季の恵み  
～ふるさと世界が出会う駅～

【俱知安駅】



浪漫が薫る 温もりと心地よさを感じる駅  
～まちの記憶を未来へ～

【新小樽(仮称)駅】

鉄道・運輸機構は、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の建設主体として、北海道新幹線の整備事業を進めています。

# 新幹線 つくる

Vol.17



J

R T T では、今年の二月から七月にかけて、

JR 北海道および有識者等、総勢約一三〇名(WEB出席含む)が出席しました。会議の様子は報道公開され、テレビ・新聞等でも紹介されました。当日は、各自治体の新幹

線担当者等が新幹線各駅のコンセプトを受領しました。七月二十七日には、それぞれの取り組みを情報共有するため、新幹線駅を活用したまちづくり四駅合同会議を開催しました。新幹線駅を活用したまちづくりについて議論するのに、新幹線駅のデザインコンセプト、駅周辺整備の検討

に、各新幹線駅のデザインコンセプト、駅周辺整備の検討状況などについて意見を交わしました。参加者からは「各駅の情報や他の自治体の取り組みが参考になった」「競合よりも協調と協力で進める必要がある」「観光面も含めて、商工会議所や商工会との連携

も必要」といった意見が出されました。会議を通して、関係者間で課題共有や協力・連携を進めることの重要性が認識されたほか、会議の定期開催を要望する声が相次ぎました。

JRTT では、今後とも各自治体や関係機関との信頼関係の構築に努めながら、新幹線建設を進めていきます。



合同会議での議論の様子